

第61回 昭島市新春駅伝競走大会

中学生男子



順位	団体名	タイム
優勝	清泉中陸上競技部	47'46
準優勝	拝島中学校陸上部	47'50
3位	SHOWA IT 企業	48'46
4位	多摩辺 陸上	49'28
5位	福島中サッカー部	49'28
6位	拝島中学校サッカー部A	49'29

中学生女子

順位	団体名	タイム
優勝	多摩辺 陸上	53'31
準優勝	福島女子バスケットボール部	53'44
3位	瑞雲中陸上部A	53'45
4位	拝島中学校陸上部	55'25
5位	清泉中学校	59'50
6位	エンジェルプリンセス	59'55



中学生の部大会結果

昭島市の新春を飾る駅伝競走大会が1月10日に行われ、中学生男子の部に59チーム(420名)、女子の部に32チーム(230名)が参加しました。晴天にも恵まれ、沿道の皆さんの温かい

声援を受けながら13・01キロメートルを6人で継走しました。中学生男子の部では「清泉中陸上競技部」が、女子の部では「多摩辺 陸上」がそれぞれ初優勝をつかみ取りました。



大切な仲間たち



昭和中学校 3年 青木 大空さん

僕は今回初めて駅伝大会に出場しました。チームに迷惑をかけないような走りをするという目標をもって、出場が決まったときからチームで集まり毎日練習をしてきました。駅伝前日、僕はみんなに冗談で「入賞は余裕、メダル取ろうぜ。」と言いました。するとみんなは「あたりまえ」と言ってくれました。僕はその言葉が冗談で言った言葉だったとしても、とても嬉しく思いました。

そして迎えた駅伝当日、光華小に到着すると既にたくさんの方が来ていました。僕は1区だったので急いでアップをして体を温めました。そして召集がかかり、スタート地点に立ちました。僕は、スタート地点に立ったとき、アップで温めた体が一瞬で冷めるほど緊張しました。そしてスタートの合図。僕は先頭集団について行こうと思い、レース序盤からハイペースで走り出しました。しかし徐々に体力が奪われていき、上り坂に入ったときに、先頭集団から少し遅れて走りました。そのとき僕は今まで一緒に練習してきた仲間のことを思い出しました。そして「勝負はこれから」と、気持ちを直し、また走り出しました。最後は沿道の声援に背中を押され、走りきりました。決して良い順位ではありませんでしたが、前との差があまりない状態でタスキを渡せたので、一区としての役目が果たせて嬉しく思いました。そして僕の後を走った五人が前をたくさん抜いてくれたので三位に入ることができました。

僕はこの駅伝大会を通して仲間の大切さを学ぶことができました。これからの学校生活でも仲間を大切にしていきたいと思えます。

悔しさをバネに



福島中学校 2年 荒木 菜穂さん

私たちの目標は「四連覇」だった。今年の新春駅伝は四連覇がかかっていたのでプレッシャーがあった。六区の重みと初めての駅伝で、より緊張と不安が増していた。私たちの練習が始まったのは四ヶ月前の事だ。

最初は長い距離を走ることから始まった。さらに、坂ダッシュや芝生ダッシュなど、とにかくたくさん走った。去年よりも練習が少ない中で精一杯のことをしているつもりだった。でも、マラソンを覚えてくれる先生からは、「勝つ」という気持ちがあるなひとつになつていまいと言われた。

そして迎えた本番当日、あつという間に来ってしまった気がした。私たちは手の平に団結しようという気持ちを込めて「We can do it 全力疾走」という目標を書いて臨んだ。

一区の走者が一位で来て、喜びとプレッシャーで涙が溢れた。私が襷を受け取った時は二位だった。トップとの差は十秒以上あったが、その時緊張がパッと消え襷をつないでくれたみんなのために頑張ろうという気持ちが生まれ、走っている間辛さはあまり感じなかった。ただ、前の人を抜かすことだけを考えて走ったが、結果は二位だった。連覇を止めてしまったこと、前の人を抜かせなかったこと、とても悔しいと思ったが、一人ひとり全力で走りきることができたし、二位で悔しいと思える気持ちが生まれた私たちにとって、価値のある二位だったと思う。

最後に新春駅伝の悔しさをバネにこの気持ちをこれから生かしていきたい。いつも、近くで支えてくれた先生方、ありがとうございました。